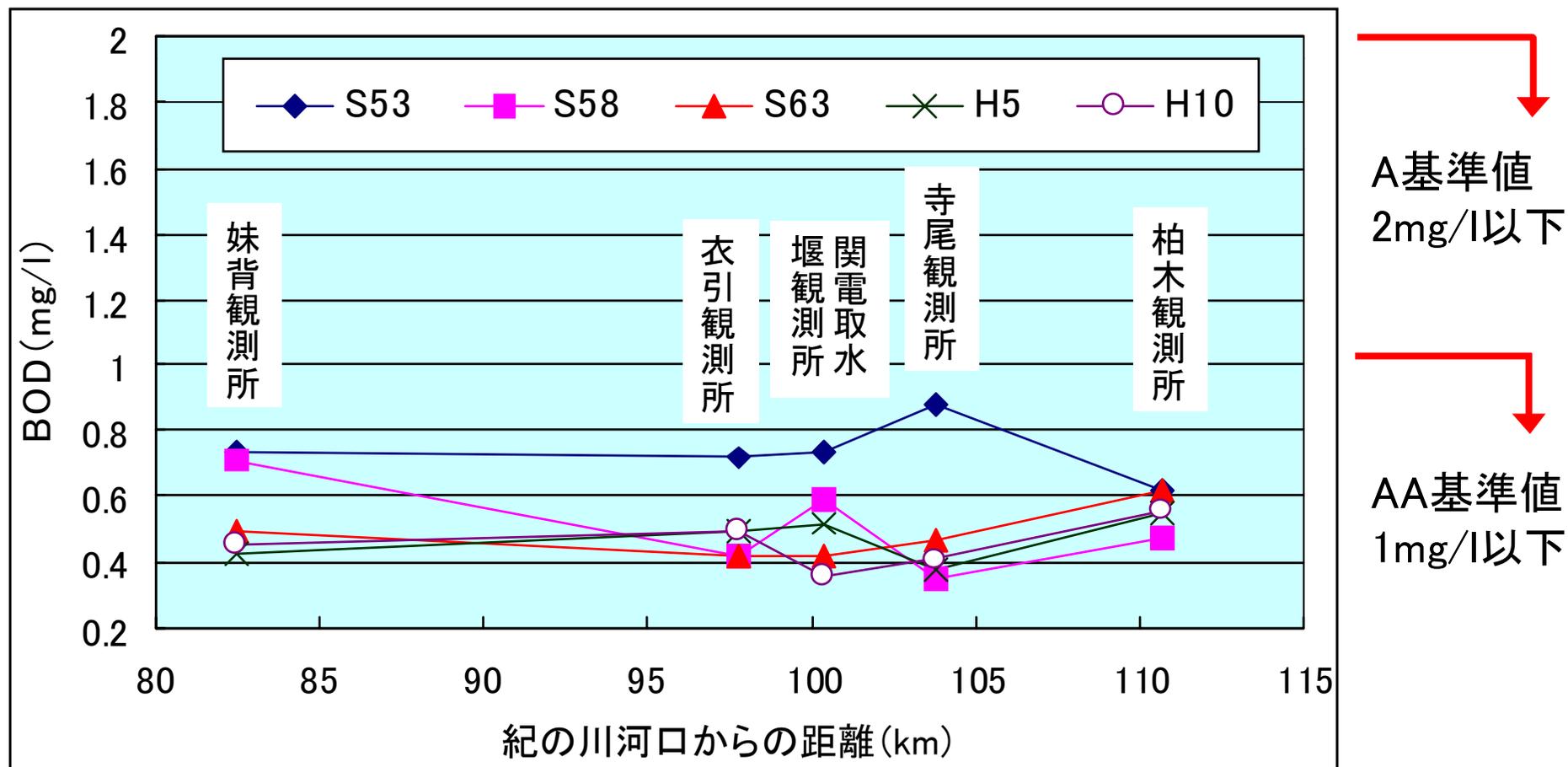


BODの現状(縦断変化)

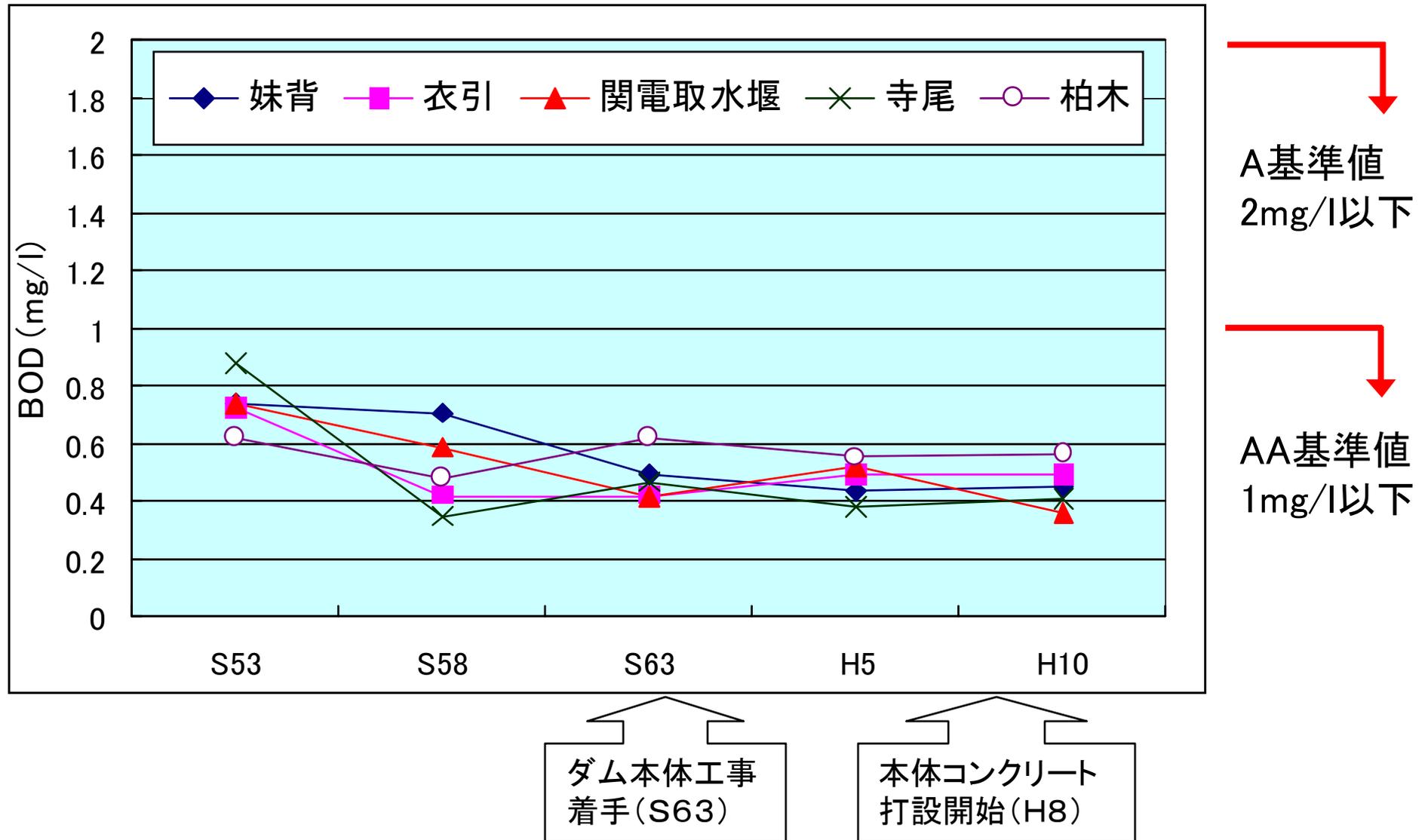
BOD(biochemical oxygen demand: 生物化学的酸素要求量)

上水用水源としては、BOD3mg/lを超えると一般の浄水処理方法では処理が困難とされています。人為汚染のない河川のBODはおおむね1mg/l以下です。



昭和53年は他に比べて高い値を示していますが、環境基準値は満たしています。

BODの現状(経年変化)

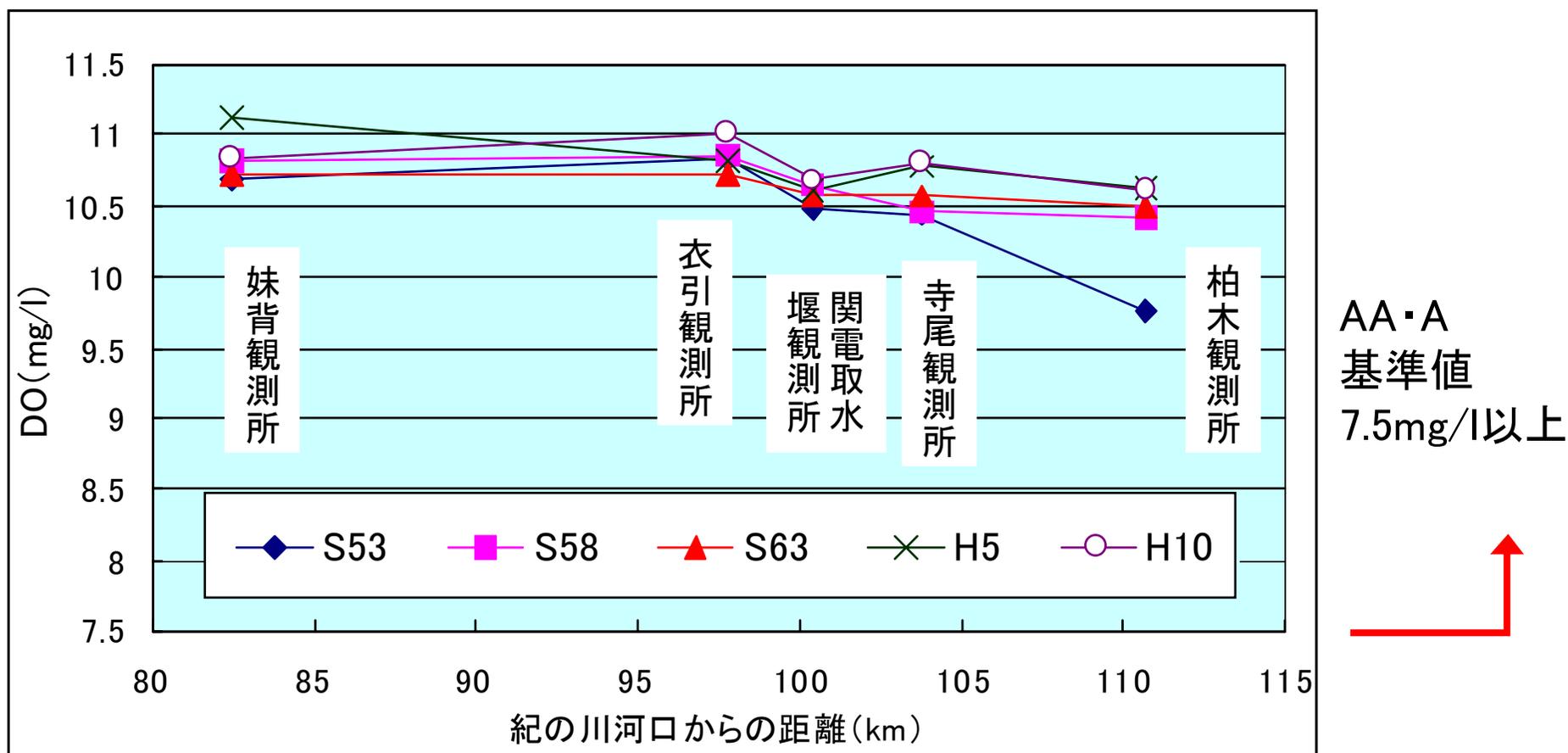


5年おきの経年変化より、各観測所で環境基準値を満たしています。また、昭和53年はBOD値が高く、他の年では安定していることがうかがえます。

DOの現状(縦断変化)

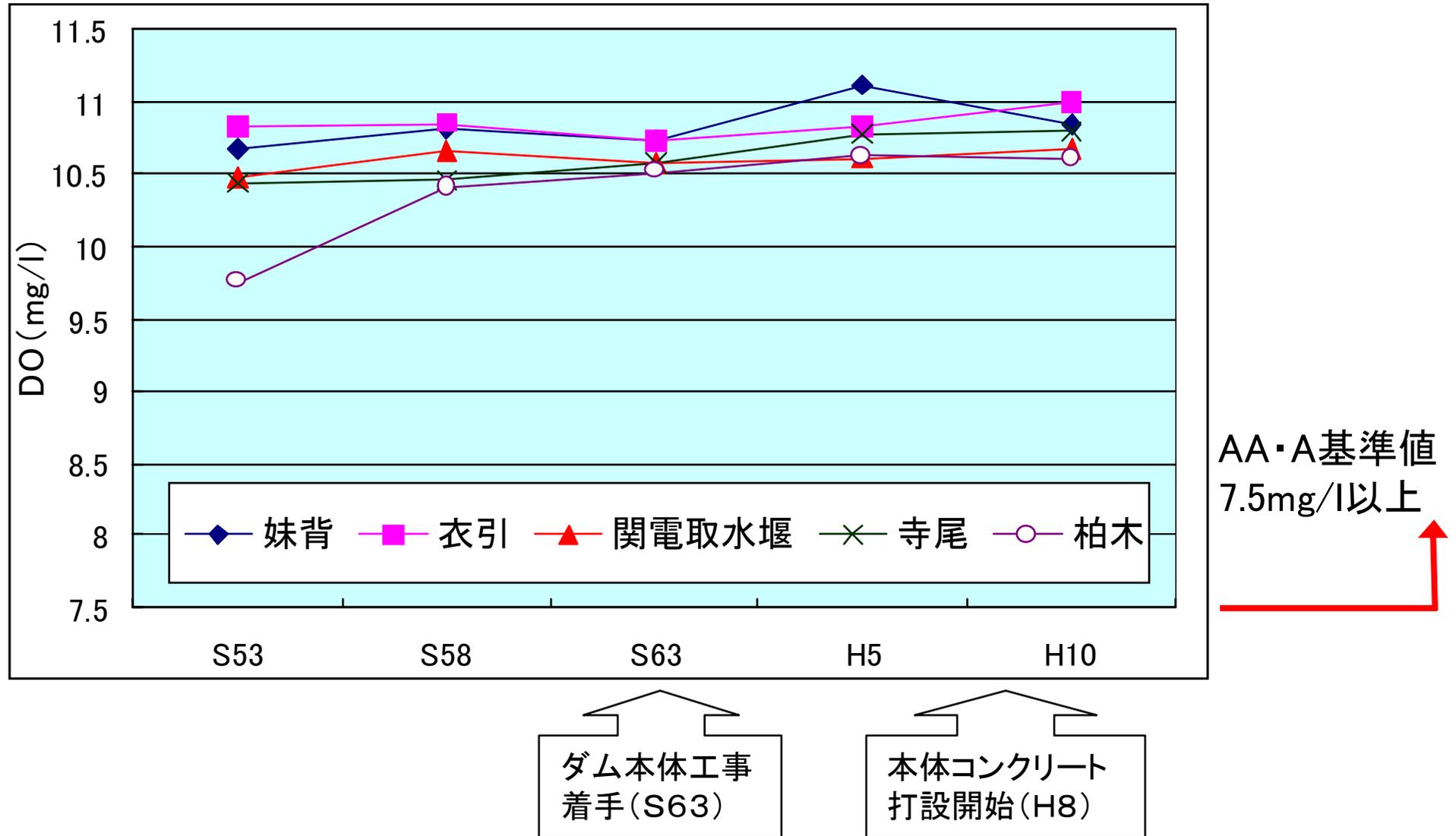
DO(dissolved oxygen: 溶存酸素量)

水中に溶解している酸素ガス(O₂)のことで、河川の自浄作用や水生生物の生活には不可欠なものです。水質の良いものはDOの値が高くなります。



各観測所で環境基準値を満たしています。上下流で安定した値をしています。

DOの現状(経年変化)

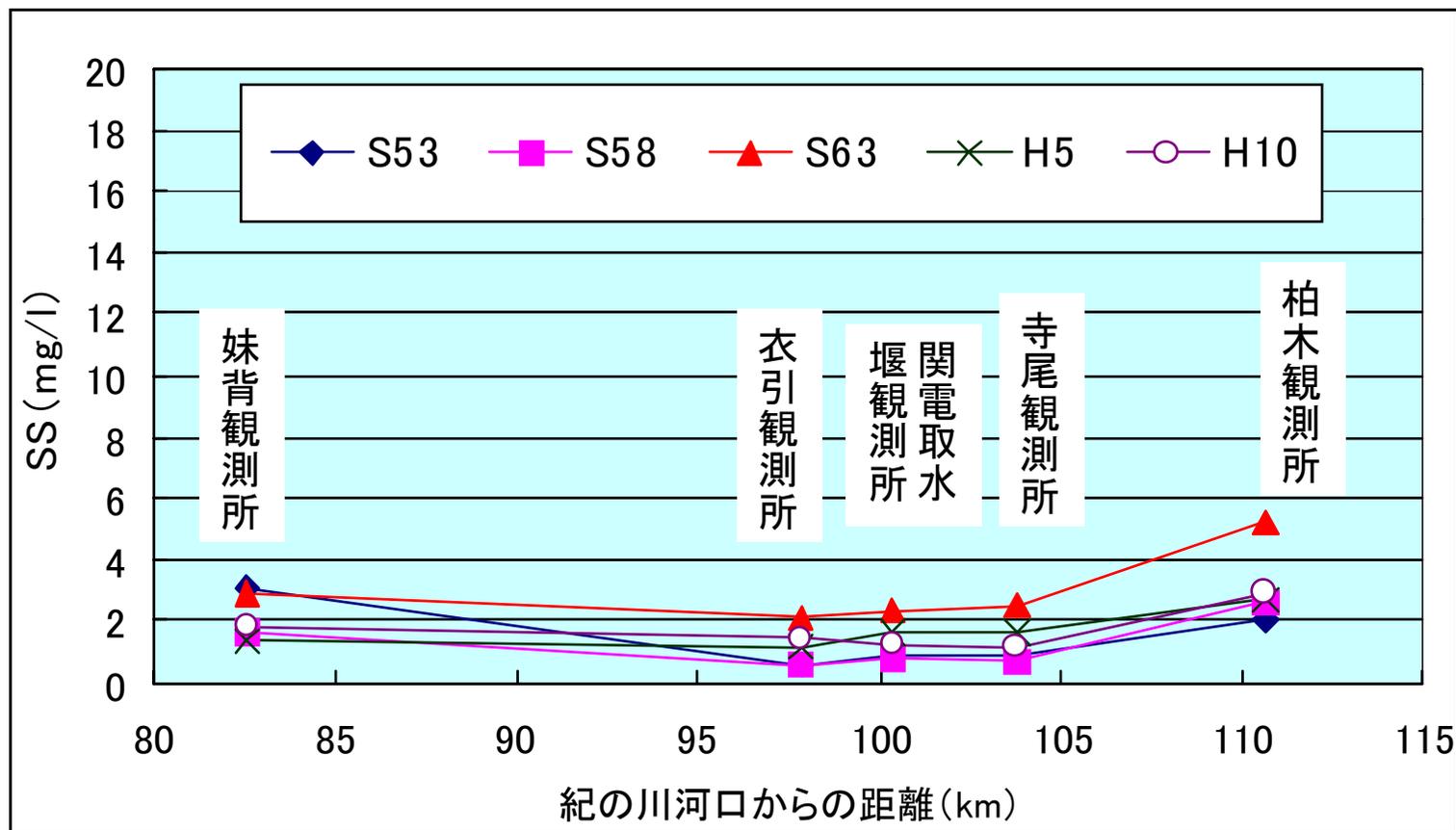


5年おきの経年変化をしてみると、各観測所で環境基準値を満たしています。各年の数値は、おおむね10~11mg/lの間で安定しています。

SSの現状(縦断変化)

SS(suspended solids: 浮遊物質)

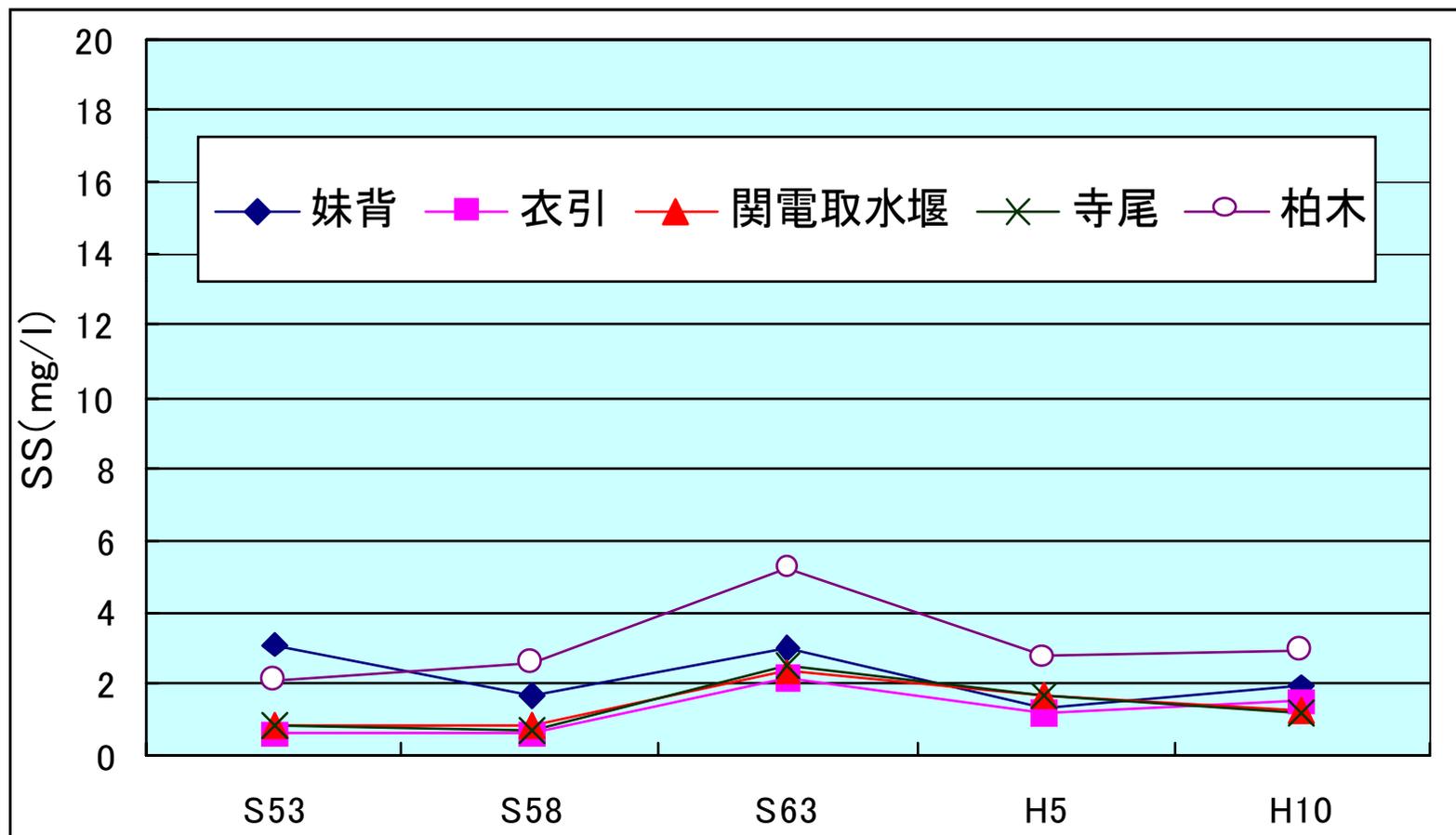
水中に存在する浮遊物質のことで、一般にこの値が大きいほど水質汚濁が激しいことになります。



A・AA
基準値
25mg/l以下

各観測所で環境基準値を満たしています。また、上下流でほぼ4mg/l以下の良好な水質状態を示しています。

SSの現状(経年変化)



A・AA
基準値
25mg/l以下

ダム本体工事
着手(S63)

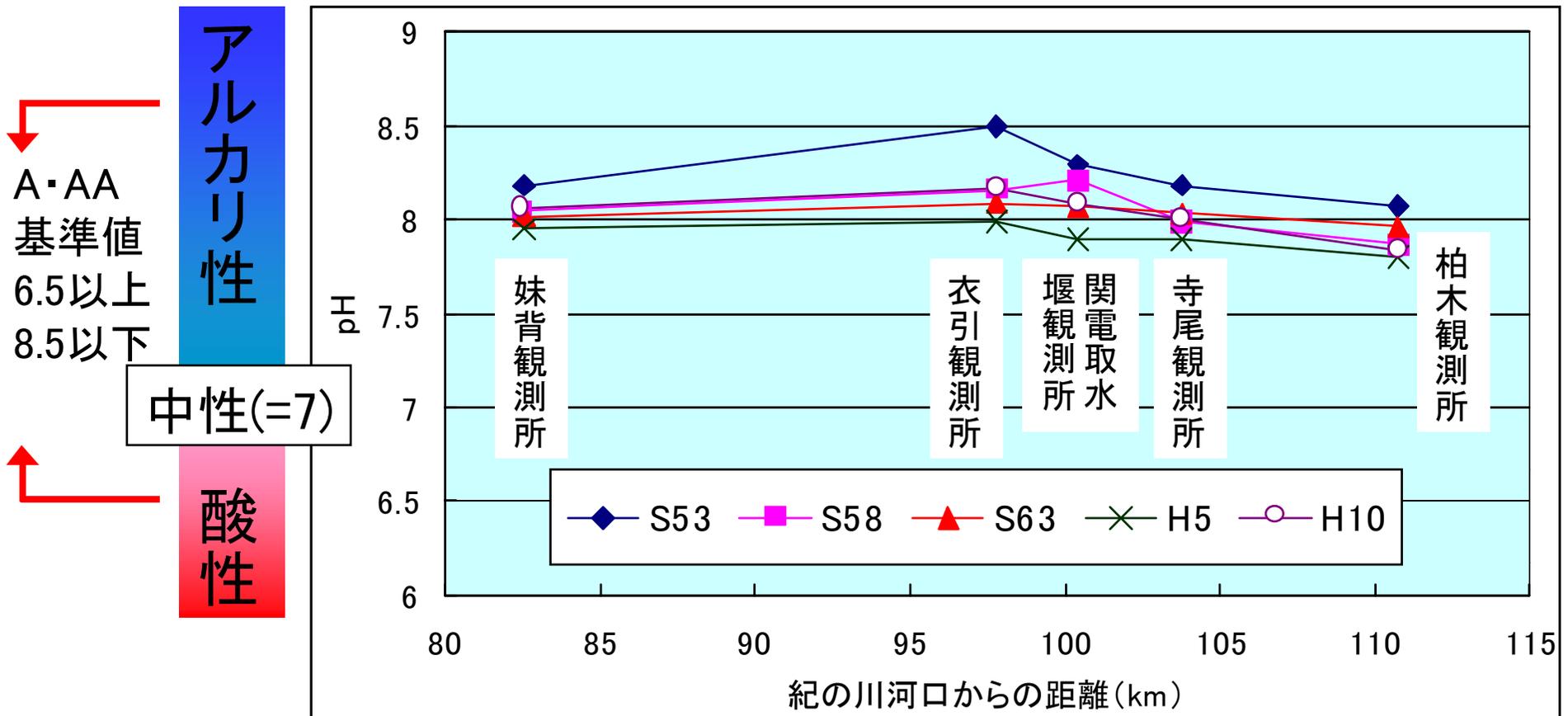
本体コンクリート
打設開始(H8)

5年おきの経年変化をみてみると、各観測所で環境基準値を満たしています。各年の数値は、おおむね4mg/l以下と安定しています。

pHの現状(縦断変化)

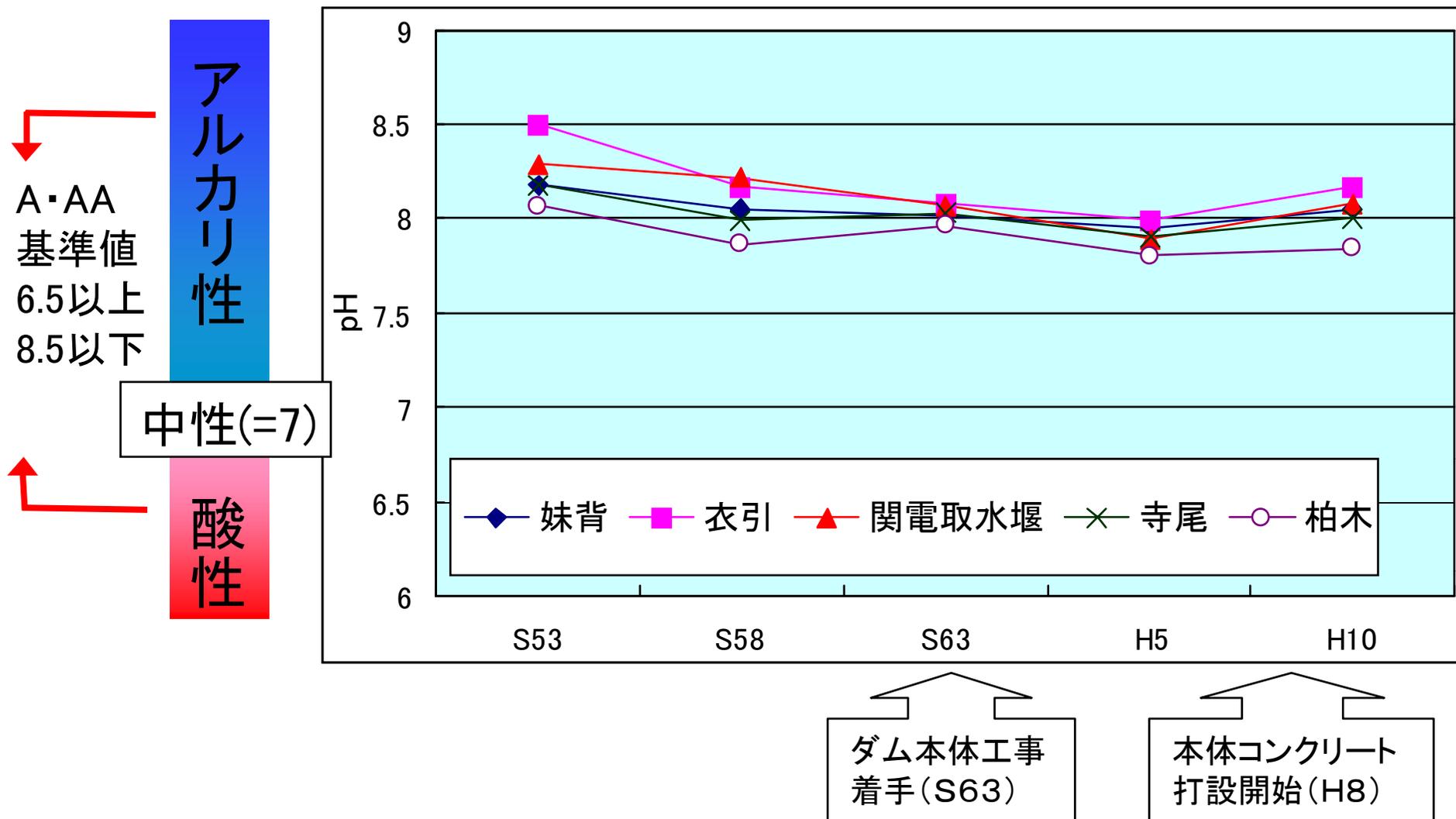
ph(power of hydrogen: 水素イオン濃度)

水の酸性とアルカリ性の度合を示す指標です。中性の水はpH7で、7より小さいものは酸性、7より大きいものはアルカリ性です。



各観測所で環境基準値を満たしています。上下流で、アルカリ性を示しています。

pHの現状(経年変化)



5年おきの経年変化をみると、各観測所で環境基準値を満たしています。各年の数値は、pH8付近であり、アルカリ性で安定しています。